

秋の古墳めぐり

一本郷町尾原川流域探訪一

平成3年12月1日

備陽史探訪の会 古墳研究部会

おはようございます！

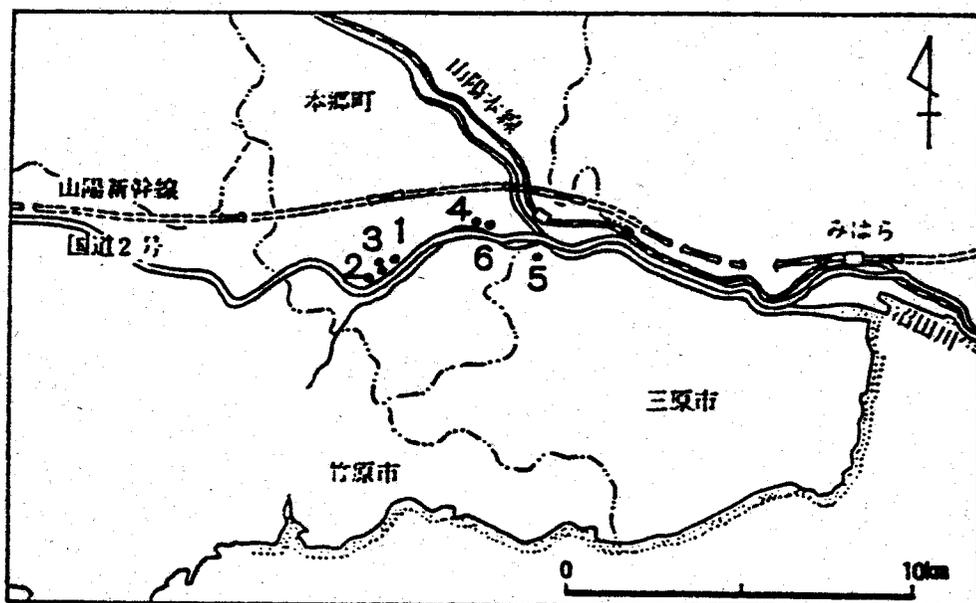
..... 今回の秋の古墳めぐりは豊田郡本郷町です

はじめに

私達の住む福山市周辺はその昔『備後の国』と呼ばれていました。さらにその昔は『吉備の国』と呼ばれていたのです。いわゆる『古代吉備国』の西の後が備後の国、つまり福山市周辺を中心にした地域になるわけです。

前回と前前回はその古代吉備国の中心地域のすばらしい古墳を見学しました。思いだして下さい。前期古墳の尾上ギリギリ山古墳、箸墓古墳の丁度半分の縮尺の浦間茶白山古墳、中期古墳で全国4番目の巨大前方後円墳一造山古墳、作山古墳、周濠の美しい両宮山古墳、後期古墳のこうもり塚古墳、箭田大塚古墳など、どれ一つを見ても畿内勢力にも勝とも劣らないほどの勢力を持っていた古代吉備国の姿が浮かんできます。私達はそれらのすばらしい古墳を見学しながら『古代吉備国』とはどんな国だったのかを考えてきました。

今回の古墳めぐりは少し視点を変えて、古代吉備国の中枢地域ではなく、安芸の国と境を接する地域の古墳を見学します。この地域は芦田川流域とよく似た状況を呈する地域ですが芦田川流域の古墳との関係、さらに畿内と吉備との関係をこの地域の古墳を見学しながら考えていきたいと思ひます。



1. 御年代古墳
2. 南方神社境内
3. 貞丸1.2号古墳
4. 梅木平古墳
5. 溜箭古墳
6. 横見鹿寺跡

今日 の 予 定 表

福山駅	出発 08:00	
南方神社境内	到着 10:00	説明・見学
	出発 10:30	
貞丸1号墳 大日堂庭内 貞丸2号墳	到着 10:50	説明・見学
	出発 11:30	
御年代古墳	到着 11:50	説明・見学
	出発 12:20	
	到着 12:30	昼 食
	出発 13:30	
梅木平古墳	到着 13:40	説明・見学
	出発 14:10	
横見廃寺跡	到着 14:20	説明・見学
	出発 14:40	
溜箭古墳	到着 14:50	説明・見学⇒移動⇒説明・見学
	出発 15:40	

※現地到着には国道の交通量の関係で誤差が生じることが有りますのであらかじめ御了承下さい

※予定時間は余裕をもって組んでありますが、時間が余ればせつかくですからもう少し見学場所を追加することが有ります

———それでは

今日これから見学する尾原川流域の古墳など、この地域の特徴について説明しましょう。

① 竜山石製の家形石棺が4個集中している。

……………これらの石棺は剥抜き式、組合せ式の二種類があり、およそ七世紀初ごろのものと考えられる。

竜山石製の石棺の使用は七世紀の時期には大和に集中し、地方ではほとんど使用されていない。山陽道における分布を見ると岡山県一、広島県五（尾原川流域四、芦田川流域一）、山口県一である。一方、大和では特定の有力者（蘇我氏など）に限られてこの棺が用いられている。

② 吉備の巨石墳に匹敵する県内最大規模の石室空間を持つ梅木平古墳が存在する。

……………背後に強大な権力者がいた。

③ 終末期の畿内型古墳である御年代古墳が存在する。

……………御年代古墳の家形石棺は花崗岩製であるが、畿内に集中する横口式石槨は花崗岩製のものが多く技術的共通性を持つと考えられ、またこのような石室も大和では皇族と密接な関係をもつ特定の有力者の墳墓であろうとされている。

④ 横見廃寺跡出土の軒丸瓦が山田寺跡出土の瓦と酷似している。

……………七世紀半ばにおける大和とこの地域との間に密接な関係があった。

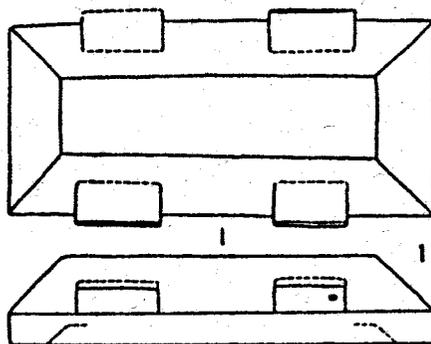
などがあげられます。

———それではじっくりとこれらの古墳や寺跡を見て回りましょう。

I. 南方神社境内石棺（豊田郡本郷町南方）

□主体部不詳

□組合せ式家形石棺…蓋石長さ2.105m、幅約1m、高さ0.44m、長辺2個づつの縄掛突起。内面刳込部長さ1.73m、幅0.6~0.63m、深さ0.12m。
棟部平坦面は長さ1.56m、幅0.41~0.42m
底石は蓋石とほぼ同規模
中央部に蓋石内面刳込部に符合するように造りだしが設けられる。石材は竜山石



II. 貞丸1号古墳（豊田郡本郷町南方）

□横穴式石室（玄室部のみ残存）…長さ4.5m~5m、奥幅2.09m、奥現高2.15m

□刳抜式家形石棺の身のみ残存…刳抜部長1.81m、幅0.77~0.815m、深さ0.3m

石材は竜山石

Ⅲ. 貞丸 2 号古墳 (豊田郡本郷町南方)

□横穴式石室…長さ5.1m、奥幅2.12m、奥現行1.97m

□石棺は残存せず

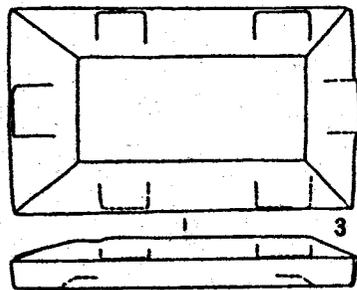
Ⅳ. 大日堂庭内石棺蓋 (豊田郡本郷町南方)

□家形石棺の蓋残存…長さ1.67~1.69m、幅0.99m、高さ0.23m、棟部平坦面長さ1.13m

幅0.5m、長辺に2個ずつ、短辺に1個ずつの縄掛突起

身部側石らしき残片あり

石材は竜山石



V. 御年代古墳 (豊田郡本郷町南方)

□ 両袖式横穴式石室 (全長10.7m)

□ 花崗岩切石で構築し玄室は二室に分かれ複室をつくる

* 前室…長さ2.71~2.77m、幅1.96~2.2m、現高2.29m

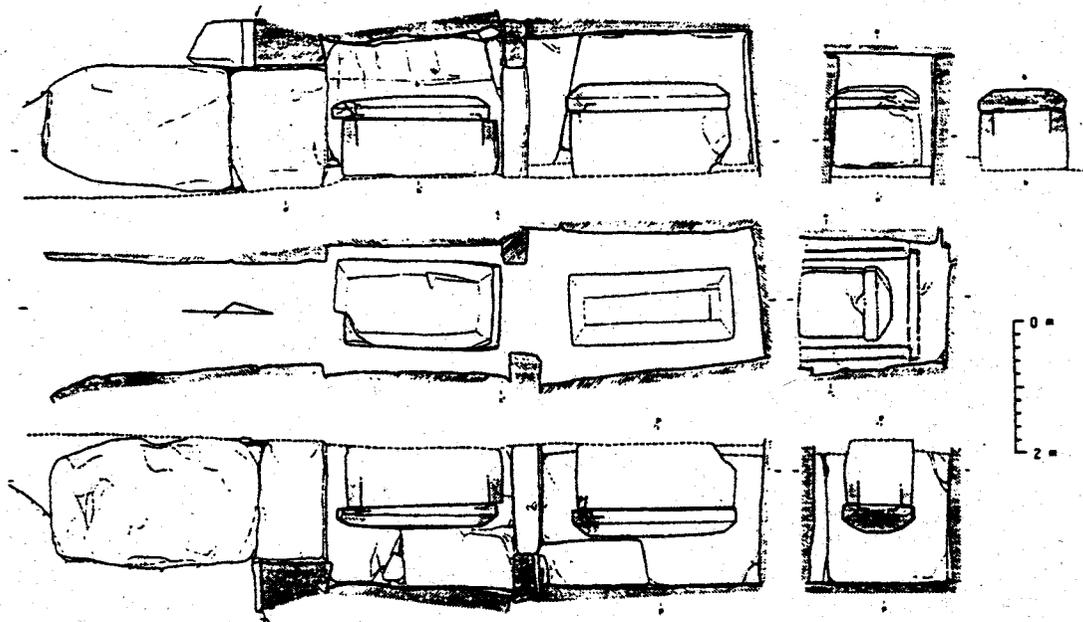
花崗岩刳拔式家形石棺… (蓋長2.4m、幅1.34m、高0.345m、棟部平坦面長2m、幅0.9m、身の高さ0.89m)

* 後室…長さ3.4~3.6m、奥幅1.97m、奥現高2.08m

花崗岩刳拔式家形石棺… (蓋長2.45m、幅1.11m、高0.42m、身の高さ0.95m)

□ 馬具類、須恵器、裝飾付須恵器出土

□ 7世紀中葉



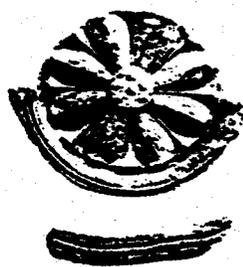
御年代古墳石室実測図 (『三原市史』より)

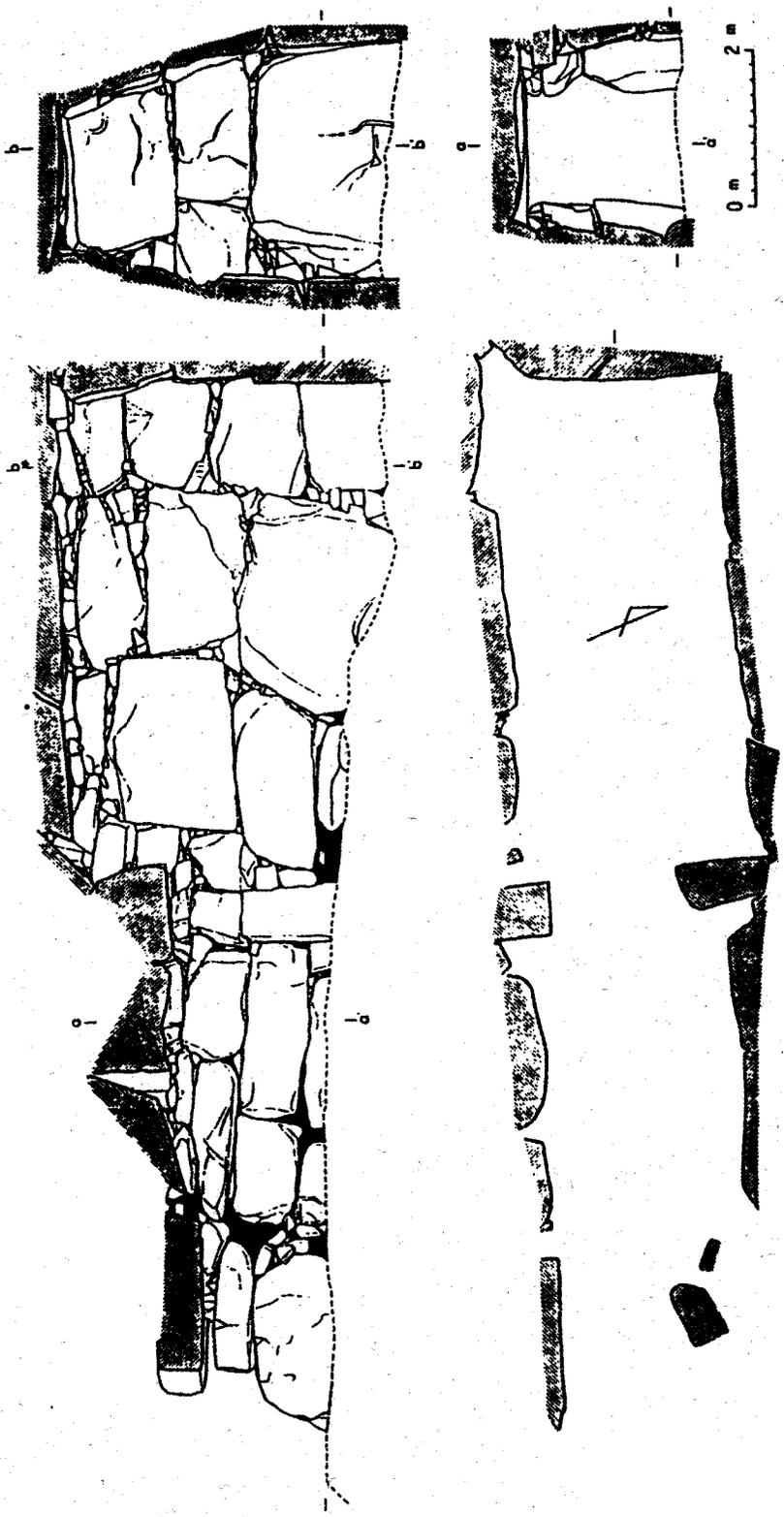
VI. 梅木平古墳 (豊田郡本郷町下北方)

- 横穴式石室…石室全長13.25m、奥室長さ7m、奥幅3.02m、奥現高4.2m
石室の中央部両側に石柱あり
県内最大の石室空間

VII. 横見廃寺跡

- 白鳳～奈良時代後半期の寺跡
- 山田寺跡出土瓦と酷似した軒丸瓦出土
- 伽藍配置は不明確





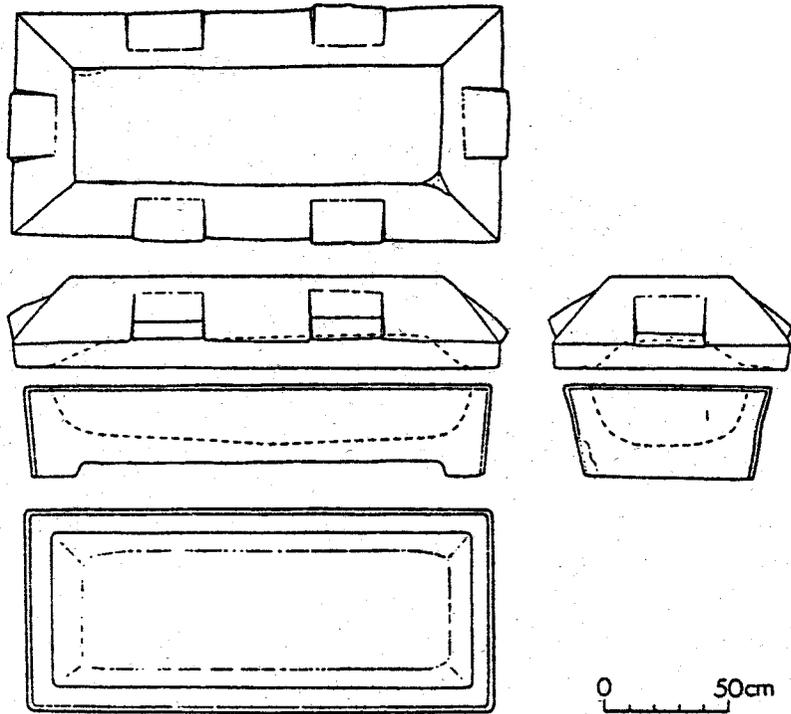
梅木平古墳石室実測図（『三原市史』より）

VIII. 溜箭古墳 (三原市沼田西町松江)

口横穴式石室 (全壊)

口刳拔式家形石棺 — 常盤神社…石棺の蓋 (長1.98m、幅0.91~0.96m、高0.39m)
 長辺に2個づつ、短辺に1個づつの縄掛突起

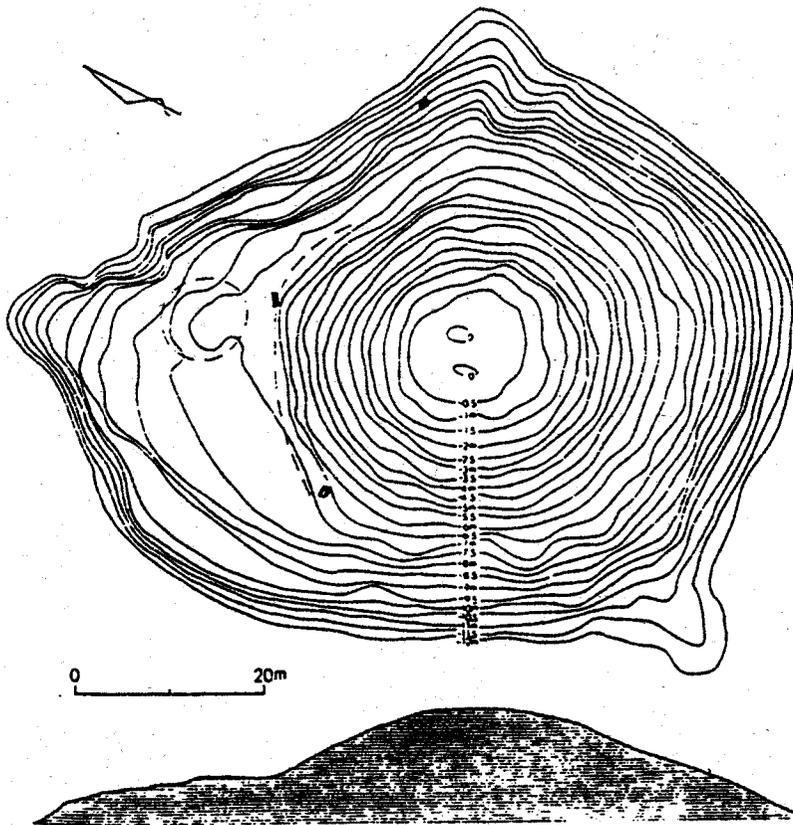
— 長円寺…刳拔部長1.72m、幅0.635~0.64m、深さ0.25m



刳抜き式家形石棺実測図 (『三原市史』より)

Ⅷ. 兜山古墳 (三原市沼田東町納所)

- 県下最大級の円墳 (直径約45m、高さ7m)
- 裾部北方に造りだし (約20m四方)
- 墳頂付近と裾部には円筒埴輪が二重にめぐる。形象埴輪片も数個採集
- 墳丘南斜面には花崗岩角礫の葺石露出
- 内部主体不明、墳丘から鉄製手鎌、須恵器片採集
- 5世紀後半



———いかがでしたか？

これまで尾原川流域の古墳を見てきましたが、ここで今日のまとめをしたいと思います

今日見た古墳からもわかるように、なぜ、七世紀になってこの地域にこれほどまでに強力な畿内系文化がいとなまれたのでしょうか？

—それは畿内政権の政治的動向、つまり地方行政区画の確立と関係しているのです。

わかりやすくいえば、岡山県に中枢勢力をもつ吉備を分割することと、出雲支配のための政治的、軍事的交通路の確保を目的としていたものと推定されるのです。

五世紀に大和政権にも劣らない勢力を持っていた吉備は、六世紀後半になってもその伝統的力は保持されていました。そのため畿内政権が全国を統一するためには吉備勢力を抑えることが必要でした。そこで早くから比較的畿内文化とのつながりのあった吉備西端の備後を先ず分割し、尾原川流域には七世紀になって竜山石の文化をもつ畿内系の勢力が派遣され安芸と備後の分断を実施した。やがてこの分割をさらに徹底させ、出雲をにらみながら、中央から有力官視吏が派遣され、強力な行政指導のもとに両国の分割が完成したと考えられるわけです。

—以上のようにこの尾原川流域は備後の国の成立過程を考える上において非常に興味深く、しかも重要な地域なのです。

さて、あなたはどのようにお考えになりますか？

《メモ欄》

